気づき，考え，実行する
さし人つうしん

唐津市立佐志小学校
学校だよりＮＯ.６
令和４年６月１４日
文責：校長　松野克己

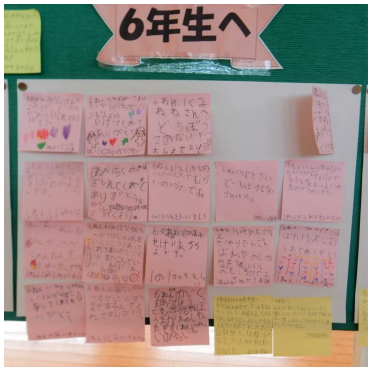
水泳(水遊び)スタート！

６月に入り、今年も水泳(水遊び)の時期となりました。昨年同様、学年ではなく学級単位の少人数でプールに入ることになります。例年のことですが、大変なのがプール掃除。５月２０日(金)に５年生がプール周辺を、６年生がプールの中を一生懸命にこすってくれました。１０ヶ月分の汚れがこびりついているので、簡単な作業ではありませんが、根気強く頑張ってくれて、とてもきれいなプールになりました。

先週初めから、水の中に入っています。まだ、肌寒さを感じますが、子供たちは水の感触を楽しんでいます。

復活!たてわり班活動

新型コロナによって、様々な教育活動が制約されていることは、これまでも度々お伝えしてきました。その中でずっとできなかったのが、たてわり班での活動です。異学年による活動ですから、陽性者が出ると学年をまたいでの感染が心配されます。しかし、最近は感染者数が減り、唐津市内の小中学校でも学級閉鎖がなくなっていることから、６月１日(水)の昼休みにたてわり班遊び(しろうおタイム)を行いました。時間は通常の約半分の２０分、内容もじゃんけん列車のように密になる遊びではなく、転がしドッジボールなどの広がっての遊びに限定しました。



たてわり班活動は全て６年生がとなって進行しますから、リーダーとしての資質や責任感を高められます。下級生にとっても、あこがれや感謝の気持ちを育てることができます。右の写真は、児童玄関前の「たてわり伝言板」ですが、ここには活動後の６年生に対する感謝の言葉が綴られています。短時間で密を避ける工夫をしながら、この縦割り班活動を定期的に続けていきたいと思います。

５年生海の学習

今年も５年生は総合的な学習の時間に、様々な海洋体験学習を行います。そのスタートとして６月８日(水)に県玄海水産振興センターの梅田さんに来ていただき、様々な漁法や玄界灘で捕れる魚、環境問題などの話を聞かせていただきました。特に興味深かったのは、地球温暖化による海の環境変化でした。この１００年で海水温は約1.2 ℃上昇しているとのこと。たいしたことないように思えるのですが、気温と水温では感じ方が全く違います。お風呂の温度が 41 ℃と 42 ℃では熱さが全く違いますよね。実際に馬渡島の海には熱帯魚のクマノミが生息しているそうです。そして、その上昇率は右肩上がりだそうで、子供たちが大きくなった時の玄界灘は、南洋諸島の魚が泳いでいることになるかもしれません。

3年生人工浜清掃

３年生も地域学習の一環として海の学習を行っています。６月９日(木)の午後、学校近くの佐志浜人工海浜の海岸清掃を行いました。砂浜は、外海と岩で仕切ってありますから、直接、漂着ゴミが入ってくることはあまりありません。それでもビニールごみなどが落ちていましたから、ポイ捨てしたものが風で飛ばされたりしてここにあったのでしょう。小さな子どもに遊ばせるには絶好の場所です。やっぱりきれいにしておきたいですね。ちなみに、仕切ってある岩の外側にはペットボトルやプラスチックなどの漂着ゴミが岩の間に挟まっていました。今月１９日(日)のラブアースクリーンアップの作業はここが中心になるのでしょう。

3年車いすバスケ体験

もう１つ３年生の話題です。６月１０日(金)に車いすバスケットボールの体験をさせていていただきました。「あすチャレ！スクール」という日本財団パラスポーツサポートセンターの事業に申し込んでいたところ、実施校５校の中の１校に当選して実現しました。講師は 2000 年シドニーパラリンピック、男子車いすバスケットボールで日本代表キャプテンをされていた根木慎志さんです。

ずっと拝見していて、とにかく感心したのが、子供たちをのせていく巧みな話術です。関西弁ならではのテンポのよさで、子供たちに同じ言葉を繰り返し言わせたり、拍手をさせたりしていく中で、次第に子供たちが自然に言いたくなったり、拍手をしたくなったりするような雰囲気になっていきました。子供たちが実際に競技用車いすを使って車いすバスケットボールの試合をするときも、応援の声が途切れることなく続いていました。まさに「根木マジック」と言ってもいいでしょう。

もう一つ感心したのは、ぶれないテーマのもとに活動が進んでいったこと。そのテーマは「応援の力」と言えるものです。ご自分がシュートの試技を見せる時も、子供たちに応援を求め、シュートが成功したときはその応援の力による成功であることを強調されました。子供たちがゲームをしているときも応援の声は途切れませんでしたし、一人一人の感想の中でも「応援が嬉しかった」といった言葉は、しっかりと全体に広げられていました。最後の講話も車いすバスケットボールの話ではなく、ご自分が小学生の時に苦手で嫌だった跳び箱運動が友達の応援によって、楽しく感じられるようになったというお話でした。９０分全体が、“応援の力"という「根木ワールド」に包まれていました。

３年生はこの体験で、障がい者への理解とともに、友達を励ます大切さや励まされる喜びについて体感したのではないかと思います。少しでもこの体験が普段の友達関係や学習活動に生かされることを願っています。

余談になりますが、この体験の中でそこにいた大人も車いすバスケットボールの体験をしました。私も参加しましたが、前と後ろは操作ができても、左右の操作が咄嗟にはできませんでした。また、座ったままボールを投げたりシュートしたりする難しさも感じました。普段は自然と膝や下半身の力も使ってやっていることを、車いすの方は上半身の力だけでやっているんですね。そのことがよく分かりました。